明るく健康な生徒　正しい判断力をもち主体的に学び行動する生徒　豊かな情操をもち品位ある生徒

石神井中だより

練馬区立石神井中学校
校長　　山田　美鈴
令和７年１２月９日
第８号

真の情報活用能力

校長　　山田　美鈴

つい先日「宮城県女川町にクマ出没！」の情報がＳＮＳ上に動画で挙げられ大騒ぎになりましたが、何とそれは生成ＡＩによる偽造ニュースだったことが判明しました。宮城県女川町と言えば東日本大震災で大きな被害に遭った地域であり、地元の方々にしてみれば今度はクマの被害か！と心中穏やかではいられなかったことでしょう。この話題を耳にして思い起こしたのは、イソップ童話にある「オオカミ少年」という物語です。この物語のあらすじは、退屈にしていた羊飼いの少年が、何か面白いことはないかと「オオカミが来た！」とうそをついて、村人たちを驚かすというものです。何度もうそをついているうちに、少年のことは誰も信じなくなり、結局はうそをついていた少年の世話をしていた大切な羊たちが、オオカミに食べられてしまうという物語です。

もう一つ情報伝達としての身近な例を挙げます。昔からコミュニケーション力を高めるためによく行われていた「伝言ゲーム」をご存じでしょうか。お題となった長い文章を先頭の参加者から順に隣の参加者へ耳打ちして伝えていき、最後の人までどれだけ正確に伝えることができたかで競い合うゲームです。参加者は決してわざと間違えようとか、うそをつこうなどとは思いませんが、先入観や記憶力が影響してしまい、なかなか情報が正確に伝わらないことを実感できるゲームです。これがお楽しみゲームだからこそ笑って終われるというものですが、重要な情報伝達だとするとどうでしょう。伝え方に偏見や誇張表現などが入り混じってくると、徐々に情報が歪められてしまう可能性すらあります。

今の子どもたちはこれから益々発展しゆく情報化社会に生きていくことになります。すべての情報はＡＩによって入手できる世の中です。当然ＳＮＳにのめり込んでしまうために睡眠障害を起こしたり様々な被害を受けたり、時には加害者になり得る時代でもあります。だからこそＡＩに振り回されるのではなく、ＡＩを有効活用できる能力の育成が求められています。

「日本ファクトチェックセンター」の古田大輔編集長は「今のネット空間は論理や証拠よりも感情で動いている。人間は想像以上に簡単に騙されやすい。」と指摘しています。例えば、「暗い山奥の細道なのでクマが出そうだ」というコメントを挙げるとすれば、「暗い山奥の細道」は事実ですが、「クマが出そう」というコメントは感情です。そういったものが当たり前のように流れてくると、人はそれを事実として認識してしまいがちになります。今の時代、ＳＮＳを通じて個人の感情や信念を簡単に社会に放出することができます。だからこそ、入手した情報が誇張されていないか？正しい情報か？偽りではないのか？という探求的思考力を身に付けていかなければなりません。

文部科学省は２０３０年の次期学習指導要領に「情報教育の強化」を目的として新たな「情報・技術科」という教科を現行の「技術科」に変えて新設する予定です。ＩＣＴを通じて得た知識が果たして正しいのか？を探求するためには、五感を働かせて実際に触れる、実物を見て検証するなどの実体験も不可欠であると考えます。子供たちが今後、あらゆる情報を味方にして活躍できる人材へと成長できるよう、学校としても質の高い探求的学びを進めてまいります。